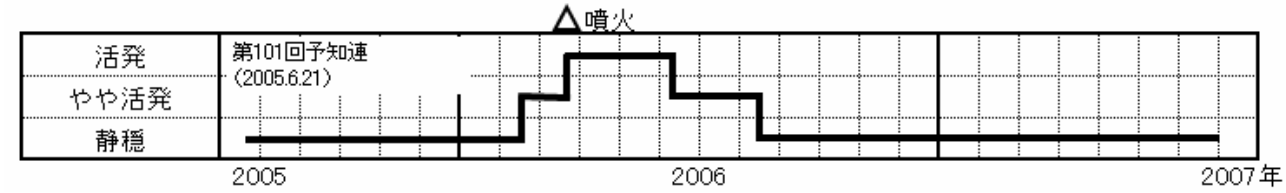
雌 阿 寒 岳

○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動に特段の変化はなく、静穏な状況です。



○ 概況

・ **噴煙及び熱活動（図 2～図 7）**

赤沼火口、北西斜面06噴気孔列及びポンマチネシリ火口の噴煙活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、噴煙高度は火口縁上概ね高さ100m以下で推移しました。

3日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、各火口の状況に特段の変化はありませんでした。

24日に北海道立地質研究所が行った現地調査によると、赤外放射温度計[1)]により測定した赤沼火口06噴気孔群の温度は約40℃で前回(2007年6月：約50℃)と比べて大きな変化はありませんでした。また、ポンマチネシリ96-1火口の温度は約85℃（前回2007年6月：約95℃）で、2000年以降の温度低下傾向が継続しています。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

・ **地震活動（図 2、図 8、表 1）**

火山性地震は1日あたり 0～3回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。求まった震源はポンマチネシリ火口の浅いところに分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

・ **地殻変動（図 9、図 10）**

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

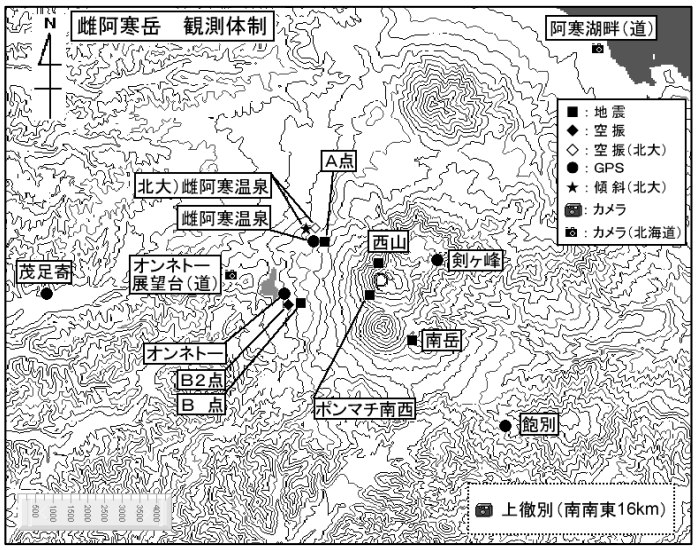


図 1　雌阿寒岳火山観測点配置図

※資料は気象庁のほか、北海道、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高)』『数値地図 10m メッシュ（火山標高)』を使用しています（承認番号　平 17 総使、第 503 号)。

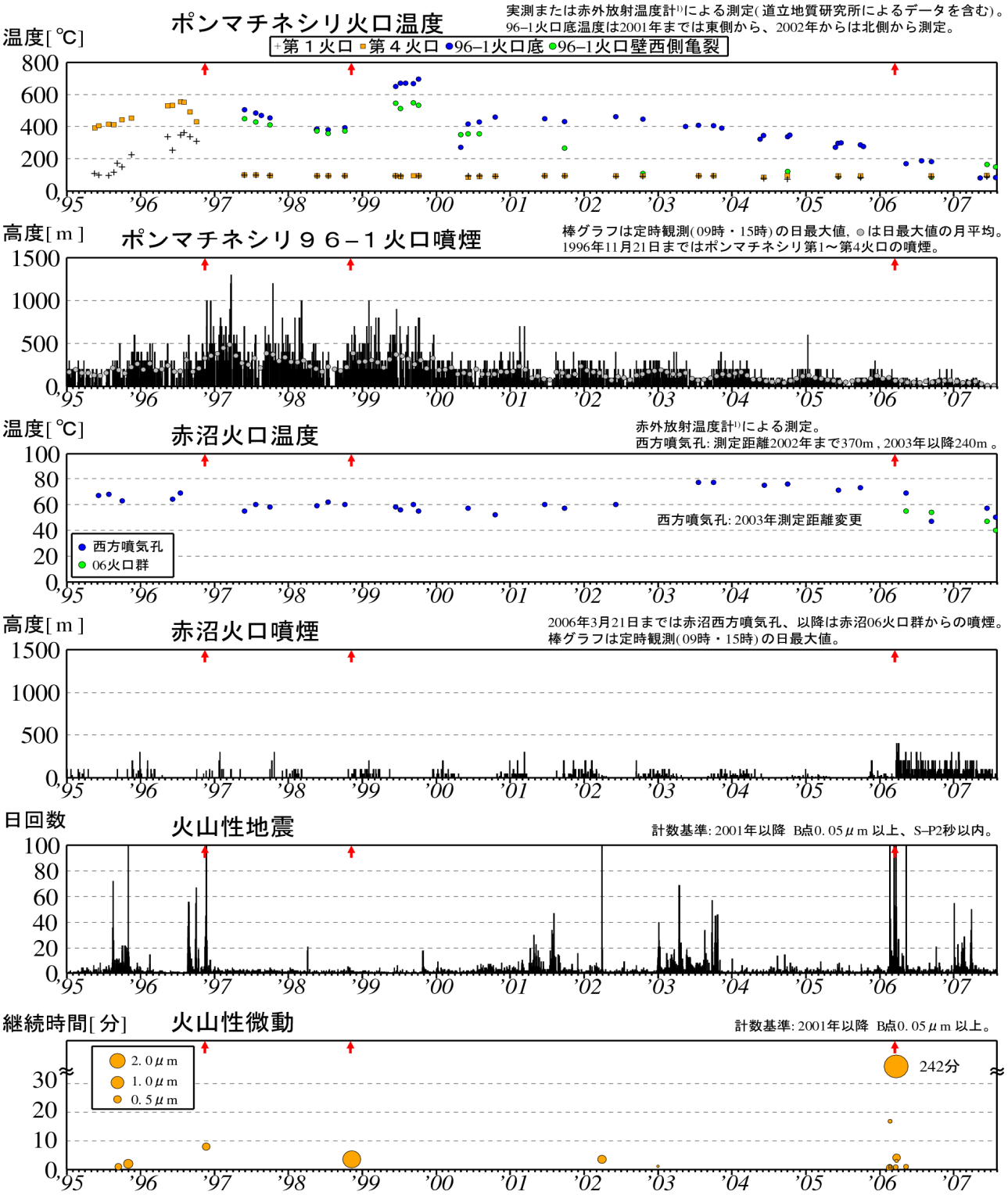


図 2※　雌阿寒岳　最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2007 年 7 月）　↑印は噴火

（1996 年、1998 年：ポンマチネシリ 96-1 火口からの噴火、2006 年：赤沼火口からの噴火）

・ポンマチネシリ 96-1 火口の熱活動、噴煙活動は 2000 年以降徐々に低下し、その傾向は 2003 年以降明瞭になっています。2006 年 3 月の小噴火後もこの状況に変化は見られていません。

・赤沼 06 火口群の噴煙活動は、2006 年 3 月の小噴火後は活発な状況でしたが、その後活動は次第に低下し、最近は静穏な状況で推移しています。

・地震活動は、2006 年 3 月の小噴火以降、2006 年 5 月および 2007 年 1 月～3 月に一時的に地震が増加したほかは低調な状態で推移しています。

図 3　雌阿寒岳　全景
（2007 年 7 月 3 日　図 4 ①方向から撮影）

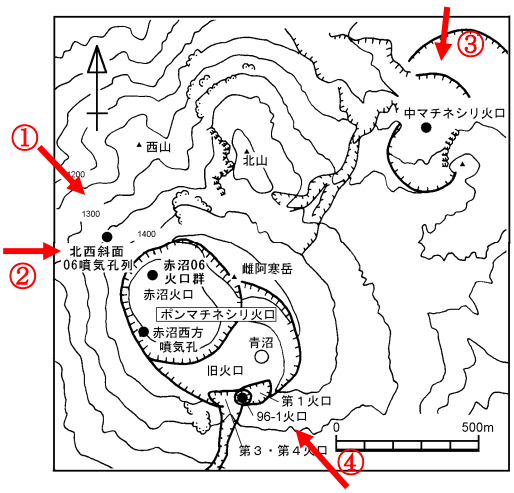


図 4　雌阿寒岳　火口周辺図

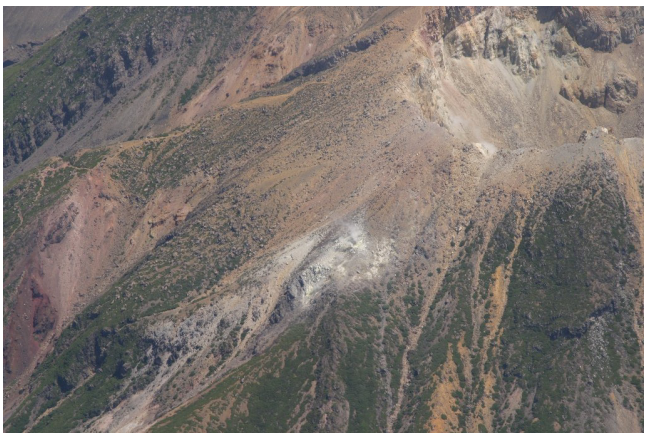


図 5　雌阿寒岳　北西斜面 06 噴気孔列
（2007 年 7 月 3 日　図 4 ②方向から撮影）

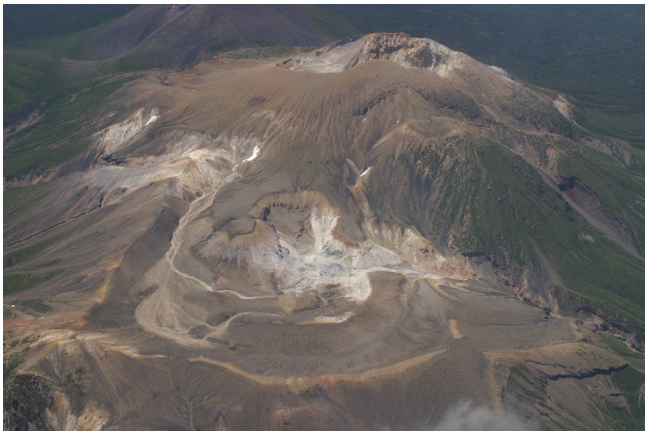


図 6　雌阿寒岳　中マチネシリ火口
（2007 年 7 月 3 日　図 4 ③方向から撮影）

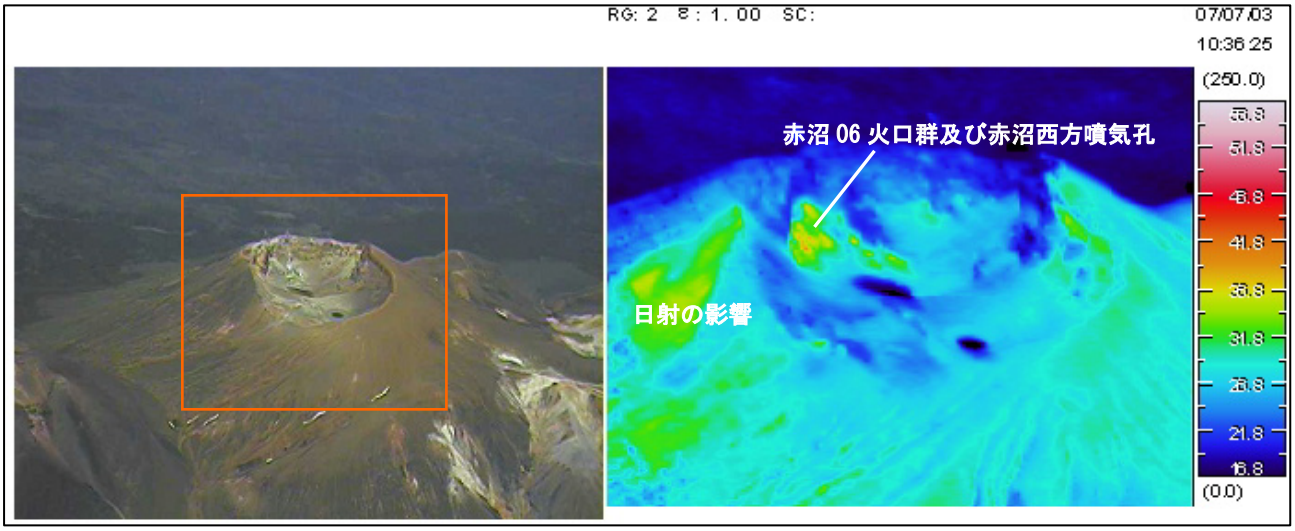


図 7　雌阿寒岳　赤外熱映像装置[1)]による赤沼火口表面温度分布
（2007 年 7 月 3 日　図 4　④方向から撮影）

・赤沼 06 火口群、北西斜面 06 噴気孔列、ポンマチネシリ 96－1 火口、中マチネシリ火口の状況はこれまでと変化なく、噴煙の状況にも変化はありませんでした。
・各火口の熱活動の状況にも特段の変化はありませんでした。

表１　雌阿寒岳　地震・微動の月回数（Ｂ点：図８のＭＥＡＢ）

2006～2007 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
地震回数	23	42	79	16	20	195	228	213	67	32	28	32
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

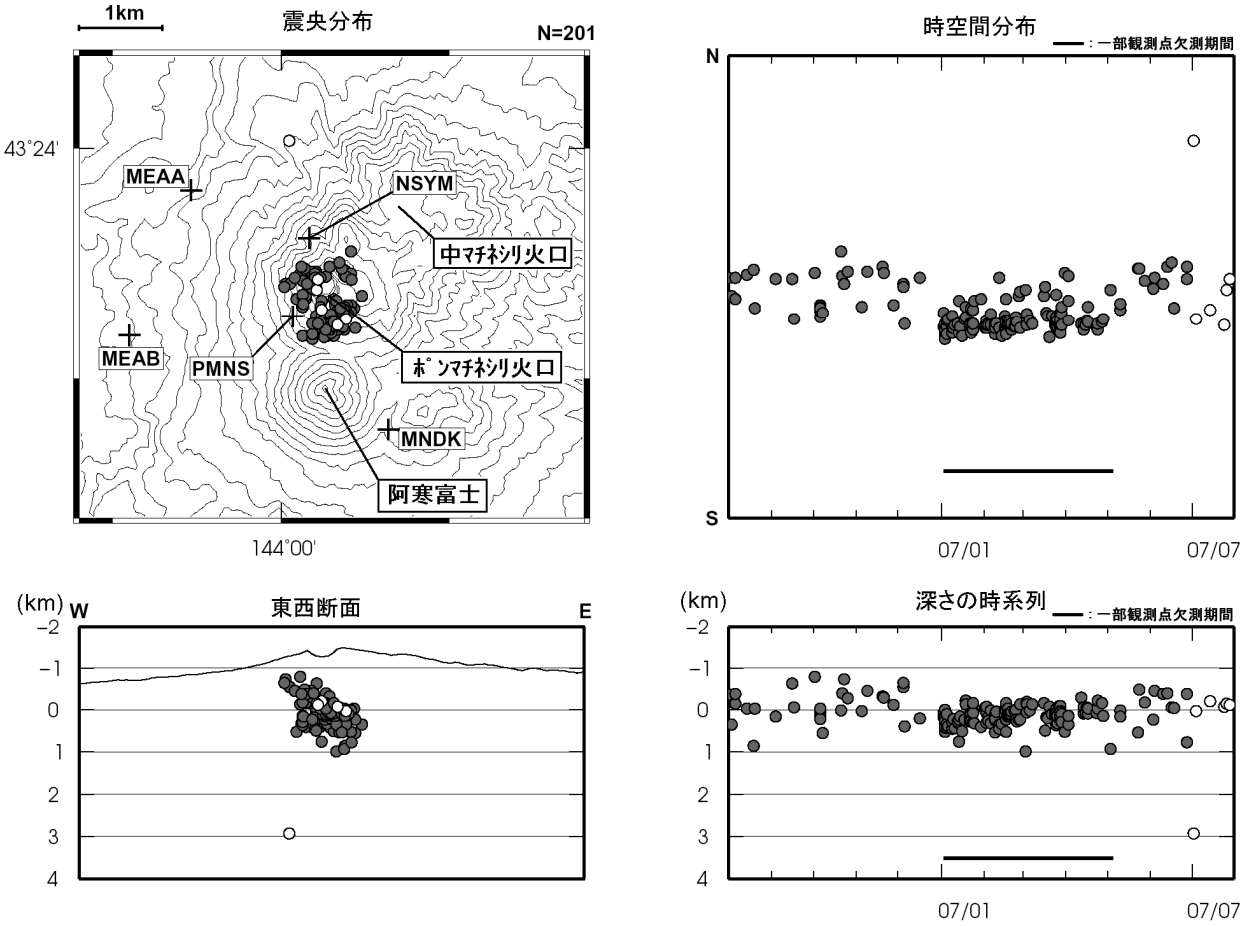


図８　雌阿寒岳　震源分布図(2006 年 8 月～2007 年 7 月、＋は地震観測点)
2007 年 1 月 3 日～5 月 5 日にかけて一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度が低下しています。
○印は今期間（2007 年 7 月）の震源
●印は前期間までの 11 ヶ月間（2006 年 8 月～2007 年 6 月）の震源

・前期間までの震源の多くは、ポンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ 1～3km 付近）に分布しています。今期間に求まった震源も概ねこの領域内に分布しています。

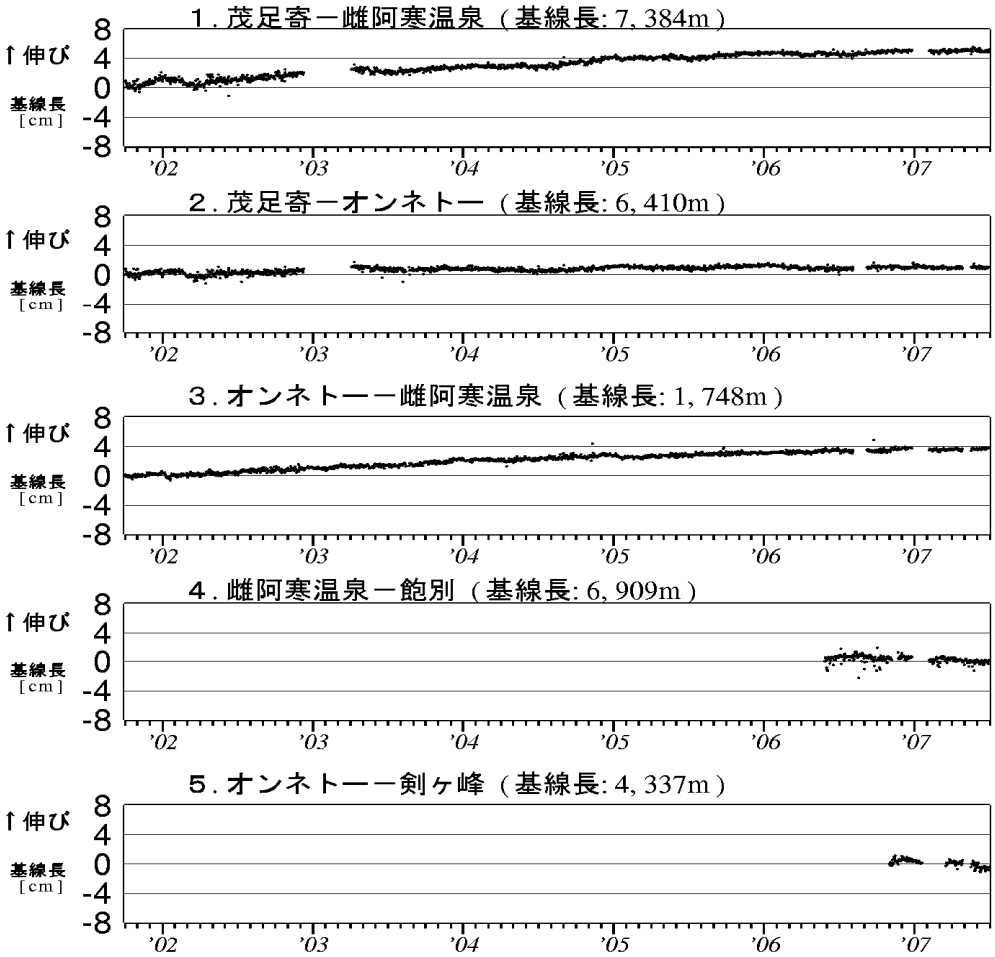


図 9　雌阿寒岳　GPS 連続観測による基線長変化
（2001 年 10 月～2007 年 7 月）グラフの空白部分は欠測
図 9 の 1～5 は、図 10 の GPS 基線①～⑤に対応しています。

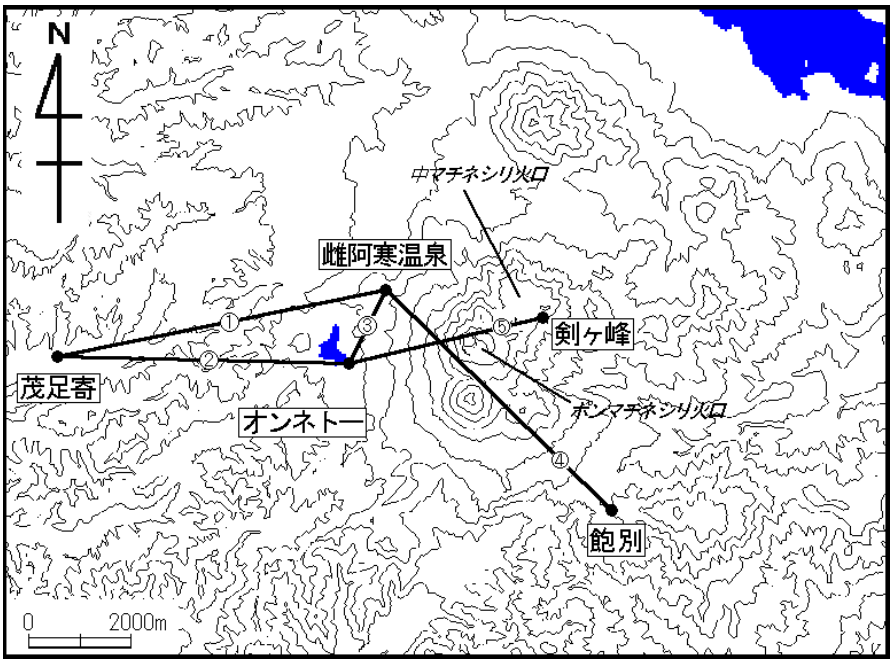


図 10　雌阿寒岳　GPS 連続観測点配置図